九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

金城学院大学人間科学部「教育心理学実験Ｂ」（３年生）授業実践報告

下條，朝也
金城学院大学人間科学部 ： 非常勤講師

https://hdl.handle.net/2324/4822560

出版情報：オンライン授業の地平 ： 2020年度の実践報告，pp.57-57，2021-04-30．雷音学術出版
バージョン：
権利関係：Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

KYUSHU UNIVERSITY

金城学院大学人間科学部「教育心理学実験B」（3年生）授業実践報告

下條朝也

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、統計学的な発想による人間理解の方法を身につけることを目的に開講された。具体的に、学生は、3～4週間に一度実験を行い、そのデータを分析し、結果の解釈をレポートにまとめることで、上記目的の達成を目指した。なお、本授業は、オンデマンド形式をとった。これは、受講生が参加を予定している教育実習等の再開時期が不明である点を考慮し、本授業の履修に対する制約を少なくするためである。

以下、本授業の流れを説明する。まず、第 1 回授業で、教育心理学に関する導入を行った。そして、第2回から第 14 回授業で、4 つの実験・調査を実施し、その結果の分析手法を教授した。最後に、第 15 回授業で、教授内容のまとめを行った。

次に、教授内容の概要を説明する。第2から第4回にかけては、倒立顔効果を題材に、t 検定の学習と演習を行った。第 5 から第 7 回にかけては、視覚探索を題材に、分散検定の学習と演習を行った。第 9 から第 11 回にかけてと、第 12 から第 14 回にかけては、それぞれ既存の質問紙を用い、HAD を用いた因子分析の学習と演習を行った。

いずれの題材も、3 回の授業から構成された。1 回目の授業では、題材に関する講義とオンライン実験・調査を行った。この授業の後に、分析手法の理解度に関するアンケートを実施した。たとえば、受講者は「あなたは、t 検定について、どの程度理解していますか？」という質問に対して5段階で回答した。次に、2回目の授業では、分析手法の基本知識に関する講義と、Excel を用いた演習を行った。なお、2 回目の授業内容は、1 回目の授業後に行ったアンケートの結果を反映して改変した。この授業の後に、分析手法に関する不明点を自由記述で回答してもらった。最後に、3 回目の授業では、2 回目の授業後に行ったアンケートを参考に分析手法の振り返りを行い、その後、分析結果の解釈の方向性を手引きし、それを踏まえてレポートの執筆を指導した。この授業の後、受講生は、各実験・調査に関するレポートを執筆し、2 週間以内に提出した。この計 4 本のレポートをを各 25 点満点で採点し、その合計点を受講生の評価とした。

毎回の授業の進め方は、次の通りだった。まず、当日に、Google Drive にアップロードされたレジュメと授業動画の URL を学生に共有した。授業後、受講生は出席登録を行い、授業内容に関するアンケートに回答した。なお、レジュメと授業動画 URL の公開や、出席登録、アンケートへの回答、レポートの提出は、全て manaba というシステムを通して行われた。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

今回の授業で、学生にとって最大の困難は、Excel を操作してデータ分析を行うことだったと考えられる。なぜなら、オンデマンド形式では、対面形式のように、その場で挙手し、何が上手くできないのかを言語化できなくとも、コンピュータの画面を見せることで解決を図ることができないからだ。その対策のため、質問メールは曜日を問わず受け付けており、翌日までには回答していたが、レポートを見る限り、分析の出来に若干の差があったように感じられた。

この問題の対策として、授業動画だけでなく、追加で Excel 操作に関する動画を作成して公開したが、解決には至らなかった。そのため、自身の労働時間との兼ね合いを考える必要はあるが、ある 1 回の授業を同時双方向型で開講し、画面を共有したり質問を受けたりして、直接対応する必要があると考えられる。